

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(12月24日～12月31日)

2020年1月8日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- 露ラジオ局「モスクワのこだま」によるルカシェンコ大統領インタビュー(12/24)
- ルカシェンコ大統領、プーチン露大統領と電話会談(12/30, 31)
- 各国外交団を招いたウィーン舞踏会開催(12/28)

内政・外交

【ルカシェンコ大統領動静】

●露ラジオ局「モスクワのこだま」によるインタビュー(12/24)

インタビューでのルカシェンコ大統領の発言要旨：

【ロシアとの統合交渉】

・自分(「ル」大統領)は確かに、統合の提唱者であった。しかしながら、旧ソ連圏におけるあらゆる同盟・統合プロジェクトは、ロシアによるものであったという点は同意いただけるだろう。エリツィンは(ベラルーシとの統合に関して)喜び、私を支持した。その後、プーチンはユーラシア経済同盟を提案した。常にロシアこそが提唱者であった。

・ベラルーシに関していえば、年を経るごとに(同盟からのメリットは)着実に下降線を辿っている。プーチンの周りの「プラグマティスト」達は、ロシアにとってベラルーシは必要ない、ベラルーシ経済は良好なのだから(エネルギー資源の)価格を引き上げよう、という具合に、少しずつ締め上げてきた。しかし、重要なのはこうしたプロセスではない。90億USDの(対露)貿易赤字という結果だ。

・主要な問題については、平穏に合意形成しなければならない。誰かの反発を買ったり、扇動者たちに居場所を与えるようなことはすべきではない。

・統合のためのロードマップについては、ミンスクとモスクワは、「ロシアの主権もベラルーシの主権も、乞わず、減じないような統合」を進めようとしている。主権とは何か。それは領土に対する権力である。ベラルーシにもロシアにも国境があり、その中で権力が行

使されている。ベラルーシもロシアも、その権力を誰とも分け合うことはない。(基本合意されたとされる)30のロードマップは、経済を主として、国防や外交を内容とするものであるが、(合意未形成のまま残されている)31番目のロードマップは、超国家的機関—議会、あるいは大統領その他—の形成に関する計画である。31番目のロードマップについては、プーチン大統領との議論の対象から外している。すでに(本年12月8日の)ソチでの首脳会談でそれを議論の対象から外した。

【ロシアにとってのベラルーシの重要性】

・製造立国であるベラルーシはロシアから、原油・ガス・金属その他の原材料を購入しているが、やろうと思えば、価格は割高になるが、他国から購入することもできる。ベラルーシと協力関係にある(露)企業では、約1,000万人が勤務している。平均的な家族の人数を4人としたら、約4,000万人(のロシア人)がベラルーシが彼らからモノを買っていることを良く理解し、感じているはずである。

・ベラルーシ領内には、2つの高度な技術を擁するロシアの軍事基地(通信施設)がある。ソ連崩壊後、ロシアはこの基地に対していくら支払ったろうか。ゼロだ。例えば(カザフスタンの)バイコヌール宇宙基地に対しては、公式に知られているだけでも、同基地からロケットを打ち上げる対価としてロシアはカザフスタンに2億USD近く支払っている。ロシアはベラルーシに対しては何も支払っていない。なぜなら自分(「ル」大統領)は一度も支払い求めたことがないからだ。なぜかという、ベラルーシ国民と、さらにはロシア国民の防衛は、神聖なものだからだ。

【ロシア産ガス・原油の対ベラルーシ輸出価格】

・例えば 152USD／千立米でロシア産ガスを購入するよう求められたら、(ベラルーシは)どのように経済を組み立てれば良いというのか。当該価格で購入しろというのなら仕方ない。ただし、ロシアにとって 2000 万トンの原油及び 220 億立米のガスの市場がどこかに去ってしまっても、自分(「ル」大統領)を悪く思わないでほしい。

・ロシアが資源価格でウクライナとの間で揉めたとき、どうなっただろうか。(同国を迂回する輸送路として整備された)サウスストリームとノルドストリームは、何百億 USD も掛かるプロジェクトだ。その上、この先どうなるかも分からない。

・自分(「ル」大統領)は代替的選択肢を模索しなければならない。このことを隠すつもりはない。あなた方はなぜ、代替的選択肢をちらつかせるような形で問題解決するよう自分(「ル」大統領)を追い込むのか。我々は、ドイツとイタリアに次ぐ、第3位のロシア産ガスの消費者だ。我々はロシアから大量のガスを購入している。あなた方はこの市場を失いたいだろうか。

【ウクライナ】

・ロシアにとっての最大の脅威は、ウクライナの NATO 加盟ではない。急進的な国粋主義者達がウクライナ国内で権力を握ることこそ、ロシアにとっては NATO 以上の脅威となる。

(12/24 大統領公式サイト)

●ゴメリ州とグロドノ州の 70 人の女性に母親勲章を授与 (12/24)

5 人以上の子供を産み育てた母親計 70 人を叙勲。

(12/24 大統領公式サイト)

●プーチン露大統領他との電話会談 (12/30, 31)

・30 日、両首脳の間で 1 時間以上に亘り、炭化水素資源その他の原材料の納入量、期限、価格について話し合われた。この他、焦眉の課題となっている統合に関する未解決の問題についても議論された。同日の電話会談の結果、原油・ガスの対ベラルーシ納入については、1 月 1 日までに両国政府が合意に至ら

ない場合は、両国政府が両首脳による決定が為されるまでの暫定妥結条件を策定することで一致した。

・31 にもロシア側の発意で両首脳が電話会談を実施し、前日に引き続き炭化水素資源の供給について話し合われた。

・この他、ルカシェンコ大統領はメドベージェフ露首相及びノヴァク露エネルギー相とも電話会談し、資源納入について議論した。

(12/30, 31 大統領公式サイト)

●石油化学業界トップらとの会議(12/31)

ルカシェンコ大統領は、1 月 1 日からのロシアからの原油輸入契約が更新されていない事を受け、自身がノヴァク露エネルギー相と直接電話協議した旨言及。ルカシェンコ大統領は、近日中にロシアに代わる供給元からの原油納入を確保するよう指示を出した。バルト海からの鉄道輸送による原油輸入や、代替供給源からの「ドルージバ」パイプラインを活用した原油輸入を念頭に置いた指示と思われる。

(12/31 大統領公式サイト)

●新年を迎えるにあたっての挨拶(12/31)

ルカシェンコ大統領の国民へのメッセージ要旨：

・2019 年はベラルーシ解放 75 周年であった。また、第 2 回欧州競技大会がミンスクで開催された。

・来る 2020 年は、ソビエト国民による対ナチズム勝利 75 周年を迎える。また、東京五輪の会場でベラルーシの選手達の活躍を目にする。2019 年には下院議員選挙も実施されたが、まもなく国家の政治全体におけるより充実した出来事たる大統領選挙の運動が開始される。我々は共に、自身の運命と主権国家ベラルーシの将来を決めることを求められる。

・時がたつのは早く、つい最近、新たな千年紀の開始を慶んだが、当時からもう 20 年経った。この活発な創造の期間に、我々は独立した主権国家の建設という成果を得た。我々はそれを、「人々と呼ばれる」権利を求めて一度ならず戦わざるを得なかったベラルーシ人の歴史上、初めて為した。2020 年もその歴史の例外とはならないだろう。

・2019 年は、農業関係者にとって、近年の不作を乗り越えなければならない苦しい年となった。彼らがそれ乗り越えたことは、新年を祝う伝統のパンと塩を乗せた我々のテーブルが示している。

・産業も進展している。運輸・通信・エネルギー・科学その他の国民経済の重要部門が発展した。我々は、国の医療・教育関係の学校の成功、文化・スポーツにおける成果に、十分誇りを持つことができる。

・2019 年は国際場裏においてもベラルーシの地位は大いに強化された。2020 年は経済及び防衛の同盟においてリーダーシップを取る。(当館注:ベラルーシは2020年にユーラシア経済同盟議長国を務める他、ベラルーシの国家安全保障委員長が集団安全保障条約機構(CSTO)の事務局長を務める。)

(12/31 国営 TV ベラルーシ 1, 大統領公式サイト)

【内政】

●高官人事

ルカシェンコ大統領は以下の人事を決定・承認。

・24 日、ストレレツキー大統領官房次長を解任。

・24 日、内務省高官人事

メリチェンコ内務次官兼公安警察長を在ウクライナ・ベラルーシ大使館(モルドバ兼轄)の内務省公式代表の候補として決定。同次官の後任にはバルスコフ内務次官を当て、さらにバルスコフ次官の後任にはホメンコ内務省警備局長を就ける。在ウクライナ大使館における内務代表は、駐在国法執行機関との犯罪対策協力に寄与する。

・26 日、マリーナ・ドルゴポロヴァ女史を CIS ベラルーシ常駐全権代表に任命。そのほか、地方政府高官や国営企業幹部の人事等を承認。

・30 日、セルゲイ・シュパルロ氏を非常事態省チェルノブイリ原発事故被害対策局長に任命。

(12/24-30 大統領公式サイト)

【外交】

●各国外交団を招いたウィーン舞踏会開催(12/28)

舞踏会におけるルカシェンコ大統領の発言要旨:

・1年前、(今回のウィーン舞踏会の会場となった)独

立宮殿で初めて新年舞踏会が開催されたことにより、何百年にも亘って欧州文化を心に育んで生きてきたベラルーシ人にとって身近な舞踏の伝統が蘇った。

・あらゆる時代において、宮殿は政界・社交界の中心であり、公式行事において芸術が披露される場であった。現代においても芸術は、とりわけ外交において重要な役割を担っている。国民同士そして国家同士の友好関係強化の可能性を開くものである。

・本日、時代の検証を経てきた作法・伝統を遵守しつつ、現代ベラルーシにおける初めてのウィーン舞踏会を独立宮殿で開催する。

(12/28 大統領公式サイト)

【経済】

【国内経済】

●中央銀行:ベラルーシの平均給与はロシアに比べて約 23%低く、カザフスタンとウクライナよりは高水準。

中央銀行が経済財政概況の分析の中で、2019 年 10 月の数値として公表。ベラルーシ人の平均給与額は 1,123.4 ベラルーシ・ルーブル(BYN)で、実質ベースで前年同月比 6.2%増。2019 年 10 月のロシアにおける平均給与は 1,455 BYN、カザフスタンが 1,041 BYN、ウクライナが 889 BYN であった(いずれもベラルーシ・ルーブルに対する各国通貨の公式レート of 月間平均値で算出)。

(12/24 ベラパン通信)

【対外経済】

●ベラルーシは石油パイプライン「ドルージバ」に油質管理所を建設へ

27 日、「ゴメリトランスネフチ・ドルージバ」社のヴェリゴ副社長がすでにベルネフチェヒム社の支持を得ている計画として表明。ドルージバのベラルーシ領内の部分に測量・油質計測システムが造られる。2020 年に建設計画の第一段階が実施される。投資額は不明。

なお、ベルネフチェヒムは 2019 年 4 月 19 日、ドルージバ経由でベラルーシに輸送されるロシア産石油「ウラルス」の質が悪化し、有機塩素化合物の含有量

が基準値の数十倍に高まったと発表していた。これにより、ベラルーシの二大石油精製工場であるモズィール製油所及びナフタンは一時稼働力を下げたため損失が生じたほか、パイプラインにも損傷が生じたとされる。

(12/27 国営ベルタ通信)

(了)